２０２５年度
事　業　報　告　書

事　　業　　名

盲　導　犬　事　業　〈公 1〉

社会適応推進事業　〈公 2〉

管　　理　　部　　門　〈法人会計〉

自：２０２５年　４月　１日

至：２０２６年　３月３１日

公益財団法人北海道盲導犬協会

札幌市南区南３０条西８丁目１番１号

盲導犬事業　〈公益目的事業１〉

■ 盲導犬の育成・貸与事業

１．盲導犬訓練・貸与に関すること

１）視覚障がい者への盲導犬貸与は、目標11頭に対し8頭を貸与した。

・貸与地域：道内５名（新規２名・代替３名）

道外３名（代替２名青森県、代替１名宮城県）

・盲導犬実働数５８頭（年度末時点・前年比△４頭）

２）2025年度の訓練犬18頭に対して、11頭が盲導犬の作業における訓練基準認定目標を達成した。２次適性評価の実施により、稟性面の問題によるキャリアチェンジの頭数が減り、効率よく訓練を行うことができた。

３）盲導犬ユーザーのサポート体制を安心・安全の観点から強化に取り組んだ。

・小型の犬のサイズに合わせたメス用便ベルトの頒布を開始した。

・共同訓練、フォローアップを通じて、ユーザーの日常管理意識の強化を図った。

４）2025年度の訓練犬に対して、日常管理面の充実を図るため、ハズバンダリートレーニング、トイレトレーニングを早期から導入した。トレーニングの結果、盲導犬の手入れ、排泄など日常管理面の扱いやすさの向上がみられた。

５）訓練担当2名、繁殖担当、老犬担当職員各1名（勤続２年目）に対して訓練技術の習得を目指し養成を行った。

２．繁殖に関すること

１）出産頭数は60～75頭（出産件数15腹前後）の計画に対して48頭であった。

・出産件数や出産頭数は計画よりも少ない結果となったが、他協会からの子返しを8頭受け入れたため、頭数調整したことが理由である。

出産件数	出産頭数	委託頭数	譲渡頭数	譲受頭数
12腹	48頭	53頭	3頭	8頭

・出産頭数は死産や出産後死亡犬、育仔中にCCとなった犬を除く
・48(出産)－3(他施設譲渡)＋8（他施設からの譲受）＝53(委託)
・他施設への譲渡および他協会からの譲受は、繁殖協力や子返しのため実施したものである。

２）繁殖犬として新たに8頭を確保して、繁殖犬の質の維持・向上に努めた。

・繁殖犬の導入　ラブラドール6頭（雄1頭、雌5頭）、ゴールデン2頭（雄1頭、雌1頭）

・現繁殖犬数　雄 15頭　雌 33頭

３）パピー犬53頭に対してGD-Bartテストを実施した。

・うち、29頭分の実施データをアジアガイドドッグスブリーディングネットワーク(略称：ＡＧＢＮ)に提出した。

４）繁殖犬飼育委託ボランティアに向けて、年間繁殖計画及び繁殖犬飼育委託体制について説明会を実施して、理解促進を図った。

・12月7日開催　参加数　21件

５）遺伝子病検査について、酪農学園大学および札幌市小動物獣医師会の協力のもと、対象犬51頭中48頭の検査を実施した。

６）交配や出産の分散化に取り組んだが受胎せず実施には至らなかった。

７）International Working Dog Registry(略称:IWDR)への移行を目指して、IWDRに関する情報収集を行った。

※IWDRとは使役犬の国際的なデータベースをいう

８）繁殖担当者の養成を行った。

・繁殖担当者（勤続6年目）に対して、交配技術の習得を目指し養成を行った。

３．パピーウォーキングに関すること

１）2026年度 訓練犬・繁殖犬適性評価対象となる子犬を53頭委託した。

・2-(1)実務実績の表による。

２）パピーウォーカーを対象とした飼育講習会を計画通りに実施した。

・委託終了までの間に、講習会を5回、および家庭訪問を3回実施してパピーの飼育指導にあたった。

パピー講習会、委託式：60回実施、家庭訪問：129回実施

３）犬舎内での排泄の失敗を減らすことを目的として、委託中のパピーに対してトイレトレーニングの強化を図った。

・犬舎の環境に柔軟に対応できるよう、パピー中から排泄間隔を長くする、人の生活時間に合わせて排泄コントロールをする取り組みをしてきた。しかし、犬舎内で排泄の失敗をする犬の割合に変化はなく、2026年度に向けて強化の方向性を再検討していく。

４．ケネル・老犬ホームに関すること

１）老犬飼育委託家庭への定期訪問を行い、高齢犬や病犬の飼育環境を整えるアドバイスを行った。また、老犬来所の機会に犬の健康状態を把握し個々に合ったケアの充実を図った。

・老犬飼育委託者向けの「老犬通信」を3回発行し老犬に関する情報を提供した。

・10頭の新規委託及び5頭の繁殖犬の老犬移行手続きを行った。

・引退犬頭数　15頭

・死亡犬頭数　22頭

・年度末管理頭数　53頭

２）老犬飼育委託ボランティアに対し老犬講習会を開催した。

・テーマ：老犬飼育の準備と心構え

・対象年齢：13才～14才

・開催日：10月25日

・参加者：　9件14名

３）老犬担当者の養成を行った。

・老犬担当者（勤続2年2カ月）に対して引退犬の新規委託及び繁殖犬の移行手続きに同行してもらい、下半期には委託、訪問、火葬の対応を単独で習得させた。

・1月採用の担当者には老犬ホームについて知ることを始めとして、犬舎管理、遅番早番研修を行った。

４）飼育者募集のチラシを作成し、イベント・街頭募金で約600枚配布し、老犬飼育委託者不足の解消に努めた。

５．研修に関すること

１）外部研修の活用により、職員のスキルアップに努めた。

①全国盲導犬施設連合会「加盟施設職員相互研修会」

・補助犬団体の動物福祉に関する講習会　4名オンライン参加（8月29日）

・広報・事務担当者研修会　　5名オンライン参加（9月12日）

・パピープログラム担当者研修会　1名参加（9月25日～26日）

②日本ライトハウス「視覚障害リハビリテーション基礎講習会」

2名参加（7月23日～25日1名、8月26日～28日1名）

③日本ライトハウス「生活訓練等指導者養成課程フォローアップ研修会」

1名参加（10月11日～12日、12月20日～21日）

④日本視覚障害者団体連合会「歩行訓練士等の視覚障害リハ講演会」

1名オンライン参加（8月20日）

⑤国際盲導犬連盟「2025カンファレンス」

1名参加（開催地：イギリス・ウォリック 6月19日～22日）

⑥harmonics「文書の書き方講座」

4名参加（広報誌作成担当）（9月2日）

⑦全国公益法人協会「公益法人会計基礎講座受講」

1名オンライン参加（8月21日）

６．犬具飼料等の頒布に関すること

１）盲導犬ユーザー、飼育ボランティアが購入する犬具について、卸業者からの仕入れにより標準価格の7割程度で頒布して費用負担に努めた。

・取扱数　犬具198件

２）盲導犬ユーザー、生活訓練受講生を中心に歩行補助具・日常生活用具の情報提供と頒布を行い、日常生活をサポートした。

・取扱数 用具53件

７．その他

１）犬・人の健康と安全を守るため、熱中症指数計（熱中アラーム）を導入した。

■ 普及啓発事業

１．盲導犬の普及啓発に関すること

１）視覚障がい者向け盲導犬宿泊体験セミナーを1回、盲導犬個別体験を17名に実施した。

	参加者	内訳
盲導犬宿泊体験セミナー	3名	道内 3名
盲導犬個別体験	17名	道内14名（生活訓練入所生11名） 道外 3名
参加者計	20名	
盲導犬申込者	4名	道内 3名（セミナー1名・個別体験2名） 道外 1名（個別体験1名）

２）行政機関、盲学校、視覚障がい者団体等と連携した盲導犬歩行体験を実施した。

①行政機関３件

・青森県視覚障がい者情報センター. 福祉展（7月6日）

・帯広市障害福祉課. オビパラフェスタ（11月30日）

・山形県視覚障がい者情報センター. 福祉機器展示・相談会（12月7日）

②道内盲学校２校

・北海道札幌視覚支援学校.文化祭（10月19日）

・函館盲学校（12月1日）

③各地域の当事者団体の総会、行事等４件

・秋田視覚障害者福祉協会わくわく文化祭（9月28日）

・アイフェスタにいがた（10月5日）

・北海道視覚障害者福祉連合会.福祉大会（10月5日）

・札幌市視覚障害者福祉協会.ふれあい祭り（10月26日）

３）盲導犬の受入れや視覚障害者への接客対応について理解を深めていただくことを目的に講習会を２回実施したほか、北海道運輸局主催のバリアフリー教室へ１回協力を行った。

・盲導犬受入れ・接客講習会　２回実施

対象：大丸札幌店従業員（5月14日　10名参加／10月7日　14名参加）

内容：視覚障がい者が来店した際の適切な声掛け方法、商品の案内方法、手引き誘導体験等を実施した。

・バリアフリー教室　１回実施（8月8日　20名参加）

対象：札幌市交通局 地下鉄駅員

内容：視覚障がい者への声掛け方法や手引き誘導体験を通じて、バリアフリー対応への理解促進を図った。

４）教育機関、福祉事業者、自治体等が実施する盲導犬講習会への講師派遣を通じて、盲導犬と視覚障がいについての情報・知識を提供した。

・教育機関38件（幼稚園4/小学校16/中学校8/高校3/専門学校5/大学2）

・福祉事業所2件（手稲区社会福祉協議会・厚別区社会福祉協議会）

・団体・企業等4件（東京海上日動ｱｳﾄｿｰｼﾝｸﾞ・JAIFA帯広他）

５）関係団体、商業施設、支援企業等の協力を得て盲導犬啓発キャンペーン活動を実施した。

・北海道日本ハムファイターズホームゲーム、北海道コンサドーレ札幌ホームゲーム、道庁ふくふくミニマルシェ、動物愛護フェスティバル等74ヶ所。

６）個人を対象とした施設見学会を９回実施した。また、15団体の見学を受入れた。

・施設見学会

開催月：6月、7月、8月、10月、11月、12月、1月、2月、3月

参加者数：計262名

・団体見学

参加団体数：15団体　参加者数：340名

７）協力者を対象として、2025ガイドドッグオープンデーを開催した。

・開催日：4月20日（日）10：00～15：00

・来場者数：1,240名

・ボランティア・職員参加数：131名

・取材協力：ＳＴＶ（札幌テレビ放送）、北海道新聞（デジタル版）

・寄付・募金収入：5,298,260円

・チャリティーグッズ頒布収入：574,800円

・チャリティーバザー等収入：195,794円

８）SNSやホームページ、動画配信サービス等を活用し、盲導犬に関する情報発信を積極的に実施した。

・X（旧Twitter）82回投稿

・ホームページ新着情報46回更新

・YouTube動画32本公開

９）盲導犬の普及啓発目的のオリジナル商品を製作・頒布して、盲導犬育成事業に対する理解と募金への協力に繋げた。

・新商品としてステッカー、2026カレンダーを制作し、協会来所者や啓発イベントを中心に頒布した。

・頒布実績は132件（協会来所者99件　啓発イベント33件）

１０）広報誌「北の盲導犬だより　ミーナ」を年2回各18000部発行した。

・第79号（2025年7月17日発行）、第80号（2026年1月16日発行）

■ 調査研究事業

１．調査・研究に関すること

１）ＡＧＢＮが取り組む期待育種価算出プログラムの精度向上に協力した。

・盲導犬事業 2-(3)の記載による。

２）視覚障がい者の行動範囲の拡大につなげるため、指導部内にプロジェクトチームを設け、歩行支援機器についての情報収集を行った。また、実際に使用して盲導犬歩行や生活訓練指導への汎用性を確認した。

■ その他事業

１．財源確保に関すること

１）サポート会員の新規会員目標150名に対して、227件の新規申込を受けた。また、既存サポート会員に対して、計画的に継続支援依頼書を送付し1,692件の会員継続を受け付けた。

	全体	個人会員	法人会員
新規会員数	227件	221名	6社
継続会員数	1,692件	1,637名	55社
当年度会員数	1,919件	1,858名	61社

新規会員の募集を目的として、会員募集リーフレット2種・計120,000枚を制作し、北海道新聞への折込並びに札幌商工会議所会員企業への配布を実施した。

（申込数）　サポート会員：124件　1,166,200円

一般寄付金　：180件　2,776,960円

２）募金箱の新規目標200カ所に対して、80カ所に設置した。

また、既設募金箱の定期訪問回収と設置者への送金の依頼、設置状況の確認を行う等、募金箱を適切に管理し、4,520カ所からの募金入金があった。

	全体	札幌市	札幌市外	道外
新規設置数	80件	29件	35件	16件
除台数	178件	111件	62件	5件
総設置数	6,996件	3,439件	3,058件	499件

３）街頭等での募金活動を実施し、財源の確保、盲導犬の啓発、協力者の拡大を図った。

・IKEUCHI GATE前 計10回実施

5月23日・24日、6月27日・28日、9月26日・27日、10月25日、11月29日

3月27日・28日　（各日）13:00～14:30

４）支援企業7社から協賛金を募り、継続支援ツールとしてポスター型カレンダー5,500枚を制作して支援者等に広く配布し、継続支援を依頼した。

５）遺贈寄付制度の促進および周知啓発のため、関係機関との連携を行った。

・株式会社北洋銀行「遺贈寄付に関する協力協定」締結

・READYFOR株式会社「遺贈寄付サポート窓口」への団体登録

６）ＱＲコード決済を活用したオンライン募金方法のテスト運用を開始し、多様な募金手段の導入を進めた。

２．関連団体との協力連携に関すること

・日本盲人社会福祉施設協議会関係では、全国11盲導犬訓練施設の年次報告書の取りまとめと全国関係機関への配布を行った他、職員1名が同協議会の評議員に就任した。

・全国盲導犬施設連合会関係では、理事会3回、運営委員会4回に出席した他、加盟施設職員相互研修会に職員が参加した。

・北海道盲導犬ユーザーの会関係では、当協会を会場に50周年記念講演及び定期総会が開催され運営に協力した。

社会適応推進事業　〈公益目的事業２〉

１．生活訓練の実施に関すること

１）短期入所訓練を実施した。実施回数及び指導数は、目標10回、15～20名のところ、13回開催し、24名実施した。また、新規訓練希望者は目標5名に対し、8名受入れた。

（実績）

		訓練日程	訓練期間	受入人数				計
				札幌市内		道内		
				新規	継続	新規	継続	
上半期	1	３月31日～４月11日	２週間				2	2
	2	５月12日～５月30日	３週間				1	1
	3	６月９日～６月27日	３週間	1	1		1	3
	4	７月７日～７月25日	３週間	1			1	2
	5	７月28日～８月８日	２週間		1		1	2
	6	８月18日～８月29日	２週間			1	1	2
	7	９月15日～９月26日	２週間				1	1
下半期	8	10月13日～10月24日	２週間			1		1
	9	11月10日～11月21日	２週間			1	1	2
	10	12月８日～12月19日	２週間			1	1	2
	11	１月12日～１月23日	２週間		2			2
	12	２月２日～２月13日	２週間			1	1	2
	13	２月16日～２月27日	２週間	1			1	2
			合計	3	4	5	12	24

２）通所及び訪問による指導を行った。指導数は目標月5ケースのところ、月平均3ケースであった。

※通所及び訪問による指導ケース数は、各受講者の訓練期間により変動するため、受講者数は月平均にて表示した。

・訪問訓練の状況

前年度より継続4ケース

期中訓練終了　2ケース（歩行訓練1名、点字訓練1名）

次年度へ継続　2ケース

・通所訓練の状況

未実施

３）ケース会議を実施し、訓練生の訓練達成度の確認及び評価と今後の計画を決定した。

・入所訓練：第１～13回すべて実施

・訪問・通所訓練：3回実施

２．視覚障害リハビリテーションの普及啓発に関すること

１）当協会の盲導犬事業、生活訓練事業を啓発するために、道内４カ所にて「目の不自由な方のための相談会」を実施した。前年度に引き続き、個別相談・個別体験に重点を置いた形式で実施し、来場者それぞれのニーズに即した対応を実施した。また、今年度より一部会場において機器展示に外部団体の協力をいただいたことにより、内容の充実を図ることが出来た。

・開催地域：滝川市（９月14日）、根室市（９月20日）、名寄市（９月28日）、函館市（11月30日）

・実施内容：盲導犬歩行体験、白杖紹介・体験、用具紹介、各種情報提供

２）道内の視覚障がい者や関係者からの個別相談に積極的に対応して、当協会の盲導犬事業及び生活訓練事業の利用者拡大に努めた。

・対面相談及び電話相談件数　　計526件

うち、札幌市外の対面相談数　計51件

３）盲導犬使用希望者、生活訓練受講希望者を顕在化するため、ロービジョンケアの集まりや視覚障がい者団体等の行事に参加し、盲導犬・生活訓練に関する情報提供を行った。また、団体等の要請に応じて行事の開催・運営に協力した。

・ロービジョンケア北海道（札幌市）

現地参加10回　※内１回は協会にて開催

・ロービジョンケア旭川（旭川市）

現地参加１回　オンライン参加１回

・ロービジョンケア十勝（帯広市）

現地参加３回　ハイブリット参加３回　※内オンライン協力６回

・札幌市視覚障害者福祉協会総会および理事会（札幌：５月18日、11月２日、３月22日）

・ＪＲＰＳ総会講演（札幌：６月１日）

・全国盲学校フロアバレー大会啓発活動（札幌：８月20・21日）

・北海道視覚障害者福祉連合会福祉大会（札幌：10月５日）

・北海道札幌視覚支援学校学校祭（札幌:10月19日）

・札視協まつり（札幌：10月26日）

・函館視力障害センターまつり（函館：11月29日）

（参考）

○「ロービジョンケアの集まり」とは、視覚障がい当時者とその家族、歩行訓練士、視能訓練士などの専門職が自由に相談や意見交換を行う場で、札幌、旭川、帯広の３カ所で行われている。受障後間もない方の参加もありピアカウンセリングの場としての役割もある。

〇本項での「視覚障がい者団体等」とは、札幌市視覚障害者福祉協会、北海道視覚障害者福祉連合会といった各地の当事者団体や札幌市視聴覚障がい者情報センター、視覚支援学校といった関係機関を指す。

４）「第４回ロービジョンケア講習会」を北海道眼科医会と共同で開催し、道内の視覚障がい当事者及び医療・福祉・教育等の関係者に視覚障害リハビリテーションの普及啓発に努めた。また、講習会の様子を、協会YouTubeチャンネルにて限定公開した。

・開催日　５月10日　　・参加者　計73名

・講演内容　「見えない、見えにくい人のための災害対策を考える」

・YouTube再生数　48回

５）ロービジョンケア外来を実施している旭川医科大学において、日常生活用具展示会及び相談会を計２回実施し、視覚障害リハビリテーションの普及啓発に取り組んだ。

６）視覚障がい者の外出を支援し、地域との繋がりを深めるために、同行援護事業を行っている事業者に対し、情報提供等のサポートを行った。

７）生活訓練受講者及び相談利用者へ、生活訓練の再受講のきっかけをつくるため、生訓利用者の名簿を整備し告知の効率化を図った。また協会YouTubeでの生活訓練紹介動画の公開、協会Ｘでの情報提供等を通じて、広く情報提供を行った。

８）相談会や医療機関向け展示会及び相談対応などでの情報提供の質を向上させるために、新たな用具の導入を行った。

管理部門　＜法人会計＞

１．理事会・評議員会・三役会により、効率的に法人業務の意思決定等を行った。

１）任期満了に伴う理事、監事、評議員の選任が行われ、会長、副会長、常務理事が互選された。

現 在 数　理事11名　監事2名　評議員12名

会　　長　伊藤信賢（再任）

副 会 長　小城公明（再任）　高田久（再任）

常務理事　有岡裕美（再任）

２）理事会は、計4回開催した。

第54回理事会 6月3日　第55回理事会 6月24日　第56回理事会 11月14日

第57回理事会 3月11日

３）評議員会は、計2回開催した。

第33回評議員会6月24日　第34回評議員会 3月17日

４）三役会、経営会議は、計12回開催した。

第1回経営会議 4月30日　第2回経営会議 5月20日　第3回経営会議 6月19日

第4回経営会議 7月29日　第5回経営会議 8月25日　第6回経営会議 9月29日

第7回経営会議 10月28日　第8回経営会議 11月26日　第9回経営会議 12月23日

第10回経営会議 1月27日　第11回経営会議 2月24日　第12回経営会議 3月30日

２．施設整備を段階的に進めた。

１）訓練棟及び本棟の冷房設備用太陽光発電システム設置工事

・設置工事完了　11月

２）訓練棟及び本棟の照明一部の更新工事

・次年度更新へ向けた準備に着手した。

３）本棟玄関風除室の自動ドア更新工事

・更新工事完了 2月

４）本棟の給水配管更新工事

・次年度更新に向けて指名競争入札実施の準備を進めた。

５）盲導犬訓練用車両の更新

・次年度更新へ向けた準備に着手した。

３．職員の就業環境を向上させるため、就業規則、再雇用規程、給与規程賃金表の改正を行った。

４．中長期計画の策定に向け、年間6回のプロジェクト会議を実施し、組織の方向性や課題を整理するとともに、次年度完成に向けて検討を進めた。

５．自然災害や事故などの非常時に備え、重要業務を継続できる体制整備のため、BCP（事業継続計画）策定に向けた草案作成および次年度完成に向けた検討を進めた。

６．施設に関すること

１）施設所在地

北海道札幌市南区南30条西8丁目1-1

２）施設の状況（敷地面積や建物の状況）

敷地面積　　3306㎡

本　　棟（構造等）耐火造地上3階　床面積442.16㎡　延べ面積1100.88㎡

（主設備）事務室・食堂・厨房・入所生室(5室)・宿直室

生活訓練室(2室)・浴室男女・手入れ室・ホール

訓 練 棟（構造等）耐火造地上一部3階 床面積985.07㎡延べ面積1432.18㎡

（主設備）指導員室・調理室・老犬ホーム・訓練犬室・治療室

犬の浴室・交配室・隔離室・ボランティア室

研修室(3室)・相談室

３）職員の在籍状況

		常勤	パート	非常勤	備考
常務理事		1			
事務局長		1			
所　　長		1			
事務部	統括部長	1			
	総務・普及啓発	1			
	経理	3	1		
指導部	生活訓練	3			白杖指導員２名、生活指導員１名
	繁殖・パピー	3	2	1	非常勤者は月４日
	盲導犬訓練	5	1		指導員３名
	老犬・ケネル	3	2	4	非常勤者は夜間宿直業務 実働月８日
	訓練事務	1			
施設管理人		1			
計		24	6	5	

４）盲導犬歩行指導員等の資格保有状況（他業務従事者含む）

資格名	保有者数	備考
盲導犬歩行指導員	5	
白杖歩行指導員	4	
生活訓練指導員	2	
愛玩動物看護師	1	
計	12	